「行動や会話に即して読む力」を活用し，登場人物の性格や気持ちの変化を読む

第４学年　国語科学習指導案

１　単元名　学習したことを生かして（４年生２月から３月）

２　る教材　「ごんぎつね」（光村４年下）

３　単元のねらい

○　行動描写や会話文を根拠に，ごんや兵十の性格について自分の考えをもつことができる。
○　場面の違いによるごんや兵十の行動や会話の変化を読み，二人の気持ちの変化について自分の考えをもつことができる。
○　「ごんぎつね」との共通点や相違点を考えながら，新美南吉の他の作品を読むことができる。
（言語活動）
○　物語や詩を読み，感想を述べ合うこと。
○　必要な情報を得るために，読んだ内容や関連した他の本や文章などを読むこと。

４　指導計画

第一次	１．２時間目	黙読や音読によって，作品を通読し自分の感想をもち，互いの感想の共通点や相違点を知る。
第二次	１時間目	各場面の登場人物や出来事等を自分でまとめる。
	２，３時間目	ごんや兵十がどのような人物として描かれているかを考える。
第三次	１時間目	各場面で，ごんの行動がどのように変化していったかを読む。
	２時間目	６場面を中心に，ごんに対する兵十の気持ちの変化を読む。
第四次	１．２時間目	学習のまとめを書く。

５　指導の構想

ごんがどのようなきつねなのかを児童に問うと，「いたずら好きのきつね」と考える児童と「いたずらばかりしているきつね」と考える児童に分かれる。両者は似ているようで異なる。前者がごんによいイメージをもっているのに対し，後者は悪いイメージをもっているからである。

「ごんぎつね」には，いくつものテキストが存在する。例えば，教科書では，ごんを「小ぎつね」と表記しているが，別なテキストでは「子ぎつね」と表記している。両者の違いは大きい。ごんを「いたずら好きの子供のきつね」と読むか，「いたずらばかりしている大人のきつね」と読むかによって，この物語の読み方は変わってくるからである。

中学年「読むこと」の内容⑴ウに次の指導事項がある。

場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。

４年生の児童は，『三つのお願い』『白いぼうし』『一つの花』の学習を通して，上の内容について学んできている。本単元の学習までに，児童には「各場面を構成する要素である登場人物の

行動や会話に即しながら読む力」が身に付いていると言える。

本時では，これまでに培われたこの読む力を活用し，「小ぎつね」と「子ぎつね」，どちらの表記が「ごんぎつね」という物語にふさわしいかを比較・検討させ，自分の考えをまとめさせる。児童は，この働き掛けにより，登場人物であるごんの行動描写や会話，物語の展開等を根拠として検討し，自分の考えをまとめることとなる。

６　本時の指導（５／９時間目）

(1) 本時のねらい

ごんについて，「小ぎつね」と「子ぎつね」と表記された二つのテキストを読み比べ，ごんの行動や会話，物語の展開から考えたとき，どちらの表記がふさわしいかについて自分の考えをまとめることができる。

(2) 展開

教師の働き掛け	学習活動と予想される反応	評価と留意点
１　ごんの性格について一人一人の読みを問う。 指示　起立。１場面を読み終わったら座りなさい。 発問　ごんは，どんなきつねですか。一言でノートに書きなさい。	１　ごんの性格についてお互いの読みを話し合う。 ・（１場面の音読をする。） ・いたずら好きのきつね ・いたずらばかりしているきつね ・最初は悪いきつねだったけれど，だんだんよくなった。	・座った児童にはもう１度音読させる。 ◇自分の考えを一行でノートに書いている。
２　ごんの年齢設定について一人一人の読みを問う。 発問　ごんは，人間でいうと何才くらいのきつねですか。 発問　ごんは大人のきつねなのですか，子供のきつねなのですか。	２　ごんの年齢設定について話し合う。 ・ぼくたちと同じくらいかな。 ・一人で暮らしているから大人。 ・いたずら好きのかわいい子供のきつね。 ・いたずらばかりしている大人の悪ぎつね。	◇叙述を根拠に，ごんの年齢設定を考えている。 ・この段階では，どちらがふさわしいかではなく，自分はどちらだと考えているかを話し合う。
３　「小ぎつね」と「子ぎつね」，２つの表記を比べ，どちらがよいかを話し合わせる。 発問　『ごんぎつね』というお話では，「小ぎつね」と「子ぎつね」，どちらがふさわしいと思いますか。（思考力・判断力を育成する）	３　「小ぎつね」と「子ぎつね」，２つの表記を比べ，どちらがよいかを話し合う。 ・「小ぎつね」の方がよい。「おれと同じ，ひとりぼっちの兵十か。」という表現から，ごんは，兵十と同じ大人であった方がよいと考えるから。 ・「子ぎつね」の方がよい。いたずら好きの子供のきつねと考えた方が，ごんのいじらしい償いや最後	・子供たちが想定した年齢を大人か子供かの二つに集約して話し合わせる。
４　話し合いを基に，自分の考えをまとめさせる。		◇行動描写，会話

発問　「小ぎつね」と「子ぎつね」どちらがふさわしいと思いますか。自分の考えをまとめなさい。（思考力・判断力・表現力を育成する）	の場面の悲しい結末の効果が際だつから。 4　課題に対する自分の考えをまとめる。 ・私は「小ぎつね」の方がふさわしいと考える。理由は三つある。等	文，物語の展開等を根拠に，課題に対する自分の判断をまとめている。